ハイドな女　　岡本　悠

幸雄は、惚れた

仕事場では、文子のことを愛していた

ただ、恋は実らず、平行線を辿っていた

ある時、夜のネオン街に繰り出した

10 年ほど前に来た店の場所

しかし、そこはもう、新しい、カラオケバーに変わっていた

「いらっしゃいませ」

人は、まばらだった

その女の名前はネネと言った

ネネは、自分の名前を言ったが、

俺は、「それ、俺のおばあちゃんの、犬の名前と一緒だよ」

と、返した

ネネは、その偶然を喜んでいた

ネネは下町の子だと言った

東京の下町

ブロンクスのごろつき、がいるらしい

俺は、「ブラジルの貧困街みたいな場所かい？」

と、尋ねた

ネネは、そういう感じだ

と返した

俺は、日本にもそういう場所があるんだ？　と、素直に云った

ネネに、仕事場を聴かれた

俺は「アジア・アフリカ語学院前のほう」

と云った

ネネは、巧みに、スマホですぐに調べ出した

これは品がない

ネネは、仕事場、わかっちゃったかもしれない！

というから、ギクッとしたが

ネネも、それ以上は言わなかった

ネネは、音楽の話をした

私は、ラルク・アン・シエルが好きなの

ハイドが大好き！

超カッコイイ！

ネネには、何か、まだ、あか抜けない、高校生のような物を感じた

ラルクのライブには、自分で稼いだお金で、必ず行っているようだ

ファンクラブにも、入っているらしい

ラルクは「いつも、同じ歌ばかりを歌っているよ」

と云った

ネネのジュースが、机から、ひっくり返らないか気になったが、

おそらく、それも視野に入っているだろうと思って

余計なことは言わなかった

ビーズの発音は、上から下にビーズと発音すると

ネネは、下から上にビーズと発音した

正確には、ネネが正しいが

ネネは、まあ、私もそう呼ぶよ、と言っていた

俺は、昔は、今の北海道の日本ハムファイターズは

昔は、東京にあったんだよ

と云った

昼が、日本ハムで、夜が、巨人だった

と、話すと

ネネは、初めて知った、と驚いた

それを、近くの知り合いのオジサンに振ると

オジサンは、そっけなく「それが、どうしたの？」と冷めた

ネネは、少し、俺の機嫌が悪くなっていないか、見たような気がしたが

俺は、まったく、気にしなかった

そのあとは、ネネと、オジサンと、若い男が、

野球について話していて

「ダイエーホークスとか、懐かしいね」

と話していた

ネネは、この日本ハムのネタを、違うお客さんに、しったかしよう、と言うと

オジサンは、「しったか、は駄目だよ、あるお客さんに、こういう話を聞きました、と、言わないといけない」と注意されていた

ネネは、温かいコーヒーを作ってくれた

おいしかった

帰りは、見送ってくれようとしたが、

ここでいいよ、と言ってしまった、知らなかったから...

その後、２件くらい、違う店で遊んだ

また、数日後、バーを訪れた

また、ネネはいた

ママの若葉とも初めて会った

ネネと若葉は長い付き合いのようだ

俺は、着くなり「ネネさんの作った、ホットコーヒーが飲みたい」と言った

ネネは「え～」と言いつつ、慎重に作ってくれた

おいしかった

ネネのラルクの話は止まらなかった

ラルクの、ドラムはユキヒロだよ

彼の、動きに、ラルクはかかっているんだ

ドラムは、変わっちゃったんだ

クスリをやっちゃって...

俺が、ラルクのベースはテツヤ？

と聴くと、テツと答えた

俺は、あれ、調べたらテツヤだけど

やっぱり、テツでいいのかな？

と、思っていた

カラオケで、歌うことになったので

ラルクの「ハニー」を、歌うことにした

わからないから、補佐を頼むよとお願いした

唄った

ネネはノッテいた

１か所以外は、だいたい唄えた

ネネは、若葉に「最初、聴いた段階で、もう大丈夫だと思った」と言った

ネネは、モーニング娘の「そうだ！　ウィーアー・アライブ」を唄った

ネネは、「幸せになりたい～」と唄った

10 何人も、を、１人で歌っているんだから、凄いでしょ、と言った

途中で、「誰かさんがいなければ、もっと楽しい」と言っていたのが、

俺なのか、横のオジサンなのか、わからなかった

その日は、帰りのドアを出ると、

そっと、引き寄せて抱いた、

ネネは抵抗しなかった

なぜだ？

謝肉祭の日、ネネはいなかった

俺は、「ネネ」という唄を作った

「新しい日々の始まり、今日はクリスマス、３回目の出会いだね、君に会えるといいな～」

しかし、ネネはいなかったのだ

外した

年が明けた

１月の２週目、ネネはいた

俺は嬉しかった、最後のネネだった

この日のホットコーヒーは、若葉が作った

ザ・ラスト・ロックスターズの話になった

メンバーは、ヨシキ、ハイド、スギゾー、までは２人ともわかったが、ミヤビが、お互いわ

からなかった

最近は、ラルクのライブ行けてるの？　と聴くと

最近は、忙しくていけてないといった

あとあと、若葉からの情報で、ネネは会社で偉いポジションになったらしい

彼氏はいるの？

と聞くと、

いるけど、まだ、若くて、年上の方のようではない...と濁した

俺は、カラオケで、福山雅治のスコールを唄った

その頃、ネネはトイレに言っていた

歌い終わった頃

ネネは出てきて

今の曲知ってると言った

でも、私はラルク！

と云った

俺の頭の中は、福山とハイドの顔が並んだ

俺は、帰り、ドアを開けた

ネネはドアを開けて、顔だけ出して見送ってくれたが、振り向いたら、もう中に隠れていた

その後も、ネネを追って何回か店を訪れたがいなかった

若葉が、バーの店のユーチューブ番組を教えてくれた

そこに、ネネの姿があった

ネネは、ミッキーマウスにも、傍観していた、

ハイドにも、こんな感じなのだろう

ユーチューブでいつでも見られてしまうせいか、そして、そのノリが俺とは、すれ違ったせいか、よくわからないが、恋心は失せてしまった

「歌は、あんまり上手くないよと、僕がつぶやくと、そんなのいいから！　君が返して、少し傷ついた」

神は、汚ギャルとは、付き合うな、と言った

ネネだけだったら、いくらでもアプローチするのに

いつもの、周りが邪魔すると言う、パラドックスの中にいた

確かに、もう、少し面倒臭くなっているのもあるんだけど

「ネネの作ったホットコーヒー、この世で一番、美味い飲み物〜」

もう、その歌さえ、古くなっていた

俺の歌より、ハイドの歌のほうがいいよね...

「完」